

# 会 議 録

会議の名称	第4回 鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会															
開催日	平成29年2月25日(土)															
開催時間	午前10時00分 開会・午前11時30分閉会															
開催場所	鴻巣市役所 会議室棟 1001会議室															
議長(委員長・会長) 氏名	会 長 矢 部 保 雄															
出席者(委員) 氏名 (出席者数)	矢部保雄(会長) 千葉一安(副会長) 秋葉寿美子 新井聡恵 奥木美恵子 菅間幸子 島村伸之 伊藤幸久 大原敏昭 武井浩之 佐藤芳隆 松谷裕美 中田周誠 <span style="float: right;">(13名)</span>															
欠席者(委員) 氏名 (欠席者数)	水野雅雄 森田博子 <span style="float: right;">(2名)</span>															
事務局職員 職氏名	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">教育総務部長</td> <td style="width: 50%;">田中 潔</td> </tr> <tr> <td>教育総務部副部長兼教育総務課長</td> <td>村田 弘一</td> </tr> <tr> <td>学校教育部副部長兼学務課長</td> <td>服部 幸司</td> </tr> <tr> <td>教育総務課副参事</td> <td>川  瀧 利徳</td> </tr> <tr> <td>教育総務課主幹</td> <td>鳥  沢 保行</td> </tr> <tr> <td>教育総務課副主査</td> <td>遠  藤 美穂</td> </tr> <tr> <td>学務課主任</td> <td>新  井 哲弘</td> </tr> </table> <span style="float: right;">(7名)</span>		教育総務部長	田中 潔	教育総務部副部長兼教育総務課長	村田 弘一	学校教育部副部長兼学務課長	服部 幸司	教育総務課副参事	川  瀧 利徳	教育総務課主幹	鳥  沢 保行	教育総務課副主査	遠  藤 美穂	学務課主任	新  井 哲弘
教育総務部長	田中 潔															
教育総務部副部長兼教育総務課長	村田 弘一															
学校教育部副部長兼学務課長	服部 幸司															
教育総務課副参事	川  瀧 利徳															
教育総務課主幹	鳥  沢 保行															
教育総務課副主査	遠  藤 美穂															
学務課主任	新  井 哲弘															
傍聴の可否 (傍聴者数)	可(傍聴者11名)															
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」 (2) 今後のスケジュールについて 4 その他 5 閉会															

## (1) 「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置について」

## (事務局説明)

## ・通学区域の見直しについて

高崎線を渡る4つのルートについて検証した結果、安全な通学路の観点から、鴻中陸橋の利用が良いと考えている。しかし、高崎線を渡ると、違う学区を通過することから、学区を見直す必要があると考えている。

栄町の見直しについては、上尾道路の計画において、国と市の協議内容が固まっていない段階で、通学路や通学区域の変更について論ずるのは時期尚早と判断した。このことから田間宮小の通学路の変更や、栄町の通学区域の見直しについては、当面、見送る。

## ・小中一貫教育について

現在川里地域で実践している小中一貫教育を、連携型が良いのか、併設型が良いのか、また新たな学校種として「義務教育学校」など、先進地視察を実施し研究し、時間をかけて検討していく。

## ・小学校の適正配置について

笠原小学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査を実施し、2月5日にアンケート調査結果報告会及び市長との懇談会を笠原公民館で開催した。報告会には、市長、教育長も出席し、活発な意見交換ができた。ある一定の集団の中で子どもたちに学校生活を送ってほしいという考え方に立ち、複式学級は望ましい形態ではないと捉えているが、まだ実証されていない部分もあり、結論は出せないが、懇談会時に市長から「私の任期中は、複式学級になったとしても、保護者の反対を押し切ってまで笠原小をなくすことはありません。しかし、子どもたちの教育を考えた場合、複式学級はあまり好ましくないとは思っています。」という見解が出されたこともあり、教育環境の整備という観点から複式学級のあり方が、今後の重要な論点になると感じている。

小学校の適正配置については、笠原小のアンケート結果を代表的なものを受け止め、小規模校の保護者の方の想いは、「現時点では適正配置には反対であり、小学校は存続すべきであると考えている」と捉えている。

今の段階でこのまま小学校の適正配置を進めていくということは難しいと考えているが、適正配置に関しては、将来を見据えた何らかの取り組みが、いずれは必要となってくるのではないかと、という考えに変わりない。

## (審議会委員の主な意見)

- ・すぐさま統廃合するべきではないが、子どもが減ったときにするのが子どもにとっては良い。学校がなくなるということはマイナスのイメージであり、現状の意見を尊重すると適正配置は進まない。今のことではなく、将来を考えて議論するべきである。

- ・今回は統廃合が決まっていたかのようなスタートで、進め方に冷静さを欠いていた。アンケート結果を見ると今の環境の変化に対して不安なのだと思う。アンケートの回答率が低かったので、もう少し多くの方の意見を聞きたい。結果を急ぐのではなく、もう少し子どもに興味を持ってもらいたい。ある期間を置いて見直すべきである。
- ・今回の進め方は、基本的な考え方、諮問、意見交換会と、まさに順を追って進めている。複式学級について考えていきたい。
- ・小規模校であっても、子どもをどのように伸ばしていくかが大切であり、複式学級でも致し方ないと思う。
- ・人口を増やすために、市街化調整区域に6親等以内の方は家を建てるができるが、それには地元の努力が必要である。時間をかけ、じっくり話し合いを持つことが必要である。
- ・小中一貫の取り組みは素晴らしいが、3校を一緒にしてしまうと、また違う。スクールバスなどの問題点も多く、将来的にどう進めていくか難しい。
- ・スクールバスよりも歩いて行ける範囲に学校を置くことが自然だと思う。歩くということは良いことであり、子どもが自分で通える範囲に学校を置いてほしいので、現状維持が良い。
- ・現状維持、そして子どもが増えるというのがベストであるが、それは不可能である。今の段階では複式学級になろうが大規模校になろうが、みんな不満はあるが変化を嫌っているようだ。いつ統廃合をする、というのではなく、後々していくということで8月に指針を出すことはできると思う。
- ・スクールバスなどの通学手段やその先の中学校を考えて、将来につながるような、ある程度の指針を出せばよいと思う。
- ・子どもたちのより良い教育環境を中心に考えての答申を出したい。適正配置を考える時期は複式学級が見えてくる頃がポイントとなると思う。
- ・懇談会が最終的なものではない。定期的に行っていく必要がある。複式学級が見えてくるこの5年の間に計画的に行っていくべきである。統廃合等はあくまで保護者に決めてもらうことであり、方法を考えながら行っていくべきである。

## (2) 今後のスケジュールについて

### (事務局説明)

- ・小中一貫教育の先進地視察を5月頃に予定。  
(視察先 坂戸市の城山学園を考えている)
- ・第5回の審議会は7月頃開催し、答申案について審議予定。第6回の審議会は8月頃開催し、答申を提出予定。

### (審議会委員の主な意見)

- ・答申とは別に議論した内容は別にきちんと残したいと思う。

	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鴻巣市立小・中学校校長会より推薦を受けていた水野審議委員の交代（3月に退職のため）について報告。後任の委員について鴻巣市立小・中学校校長会に推薦依頼をする。後任の委員の任期は鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会設置条例第4条2項により、前任の残任期間とする旨報告。</li> </ul>
<p>配布資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第4回 鴻巣市立小・中学校適正配置審議会 次第</li> <li>2. 資料 1 通学区域の見直し《栄町⇒鴻巣東小学校》</li> <li>3. 資料 2 現況図（三谷橋大間線・大間地下道）</li> <li>4. 資料 3 現況図（鴻巣駅自由通路）</li> <li>5. 資料 4 現況図（鴻中陸橋）</li> <li>6. 資料 5 笠原小学校の適正規模・適正配置に関するアンケート調査結果</li> </ol>